

さいたま市総合振興計画審議会第2部会 第1回部会の主な意見について（健康・福祉関係）

- 資料においては、施設が増えた、対応できる人数が増えたこと等が掲載されており、「困っている人が減った」という本質の数値については示されていない。本質をよく見極め、根本をしっかりと把握して本質を改善していく施策を実施すべきである。
- 総合振興計画のほかに、分野別の様々な計画があるわけだが、この両者の整合は図れているか。齟齬をきたしているものはないか、留意すべきである。
- ノーマライゼーションなど、本来は特定分野だけでなく総合的・横断的に位置づけるべき考え方がある。基本計画ではなかなか難しいが、まとめ方の工夫が必要ではないかと感じている。
- 待機児童の問題など、未来の市民に対する施策が結果的に疎かになっているように思われる。未来を担う子どもたちに、何かを残す施策を考えていくべきだ。
- 市民一般の幸せと、障害者の幸せは何ら変わらないものである。危険な行為を注意しない世の中の風潮も寂しいことで、心のつながりの大切さを強く感じている。
- 障害者への理解が進んでいない問題がある。障害者に対する理解度を高めることを重視すべきではないか。
- 「地域健康福祉連絡会を市内の47地区に設置し」とあるが、地域福祉の促進にあたっては、地区社会福祉協議会の実情や、市と市社会福祉協議会との関係性などに留意すべきである。
- 合併後、地区社会福祉協議会にスポットが当たり始めたがほとんど前に向いて進んでいない。地区社会福祉協議会が身近なものに感じられないところもある。この10年を反省して、地域の住民とともにしっかり前を向いて進むべきである。

※ 第1回～第3回部会での委員の皆さまのご意見等を踏まえ、事務局で計画素案を修正した後、第4回部会において計画原案を提示する予定